

# 英語遠隔授業におけるクリエイティブ・ライティング —メディア・情報学専攻学生の英語ライティング能力の育成—

Creative Writing in an Online English Class: Fostering Paragraph Writing Skills of Media and Information Major Japanese EFL Undergraduates

松岡 弥生子\*

Yaoko Matsuoka

## Abstract

This study reports on the process, outcomes, and the students' perception of *creative writing* in an undergraduate advanced English course based on the questionnaire results. Although English writing is an integral part of academic skills to be acquired in higher education, it does not seem to be taught actively in non-English-major undergraduate courses. According to the results of the questionnaire, students appeared to have appreciated writing a creative story inspired by pictures and music presented in class. Students' free comments showed interesting suggestions for implementing the creative-writing instruction that may fit the needs of their study majors.

## キーワード：

英語ライティング、創造的ライティング、ライティング指導、メディア情報学、

## 1. はじめに

### 1. 1 研究の背景と目的

日本の大学英語教育に於いて、英語や国際関係を専攻としない学部・学科では、英語ライティングを学ぶ機会はそれほど多くない。それは、1, 2年次の必須英語のカリキュラムでは、英語の基礎的学力を育成するためのリスニングやリーディングの様な受動的スキルの学習に重点が置かれていることが一つの要因と考えられる。話す・書く、といった能動的英語スキルも学習対象であるが、「英語コミュニケーションとは英語会話のことだ」という連想が根強いためか、スピーキングや口頭プレゼンテーションの授業の方が学生には人気があり、英語ライティング

を積極的に学びたいという傾向は低いように見られる。しかし、実際には、期末試験の代わりに、英語の読書感想文や小ライティングを課す英語授業は多くあり、特にパンデミックの始まった2020年以降、オンライン授業において、試験に代わる評価方法としての英語ライティング課題は増加した。一因として、対面授業時には、教員の監督下で円滑に実施されていた試験という方式が、遠隔授業になると、以前と同じ信頼性を保持することが難しくなったことがある。例えば、受験中に辞書、教科書、ノート、ウェブサイト等の閲覧をさせないことは対面授業環境下では十分に可能であったが、遠隔授業では、そうした管理が難しくなったため、ライティン

\* 文科大学情報学部

グ課題が増加したのではないだろうか。そうした背景も考慮すると、大学レベルの英語ライティングを教えることは、必要であり、教育的意義も高いと言える。特に、学生の興味を喚起してライティングを積極的に学んでもらうためには、彼らの専攻分野に合致したライティングの内容や指導を提供することが必要なのではないかと考え、本著者は、メディア情報学関連の勉強をする学生の授業にクリエイティブ（創作的）ライティングを取り入れた。

本研究の目的は、2021年春学期に開講した上級英語科目において実施した英語によるクリエイティブライティングの指導の試みを報告し、学部や専攻に適した英語ライティング授業の可能性を探ることである。初めに、当該授業の概要と授業内でおこなったクリエイティブ・ライティングの概要を述べる。

## 1. 2 授業の概要

当該科目は、デジタルによるストーリーテリングの経験という大枠の学習目的の傘下にある2年生以上を対象とする選択必須科目であり、クラスはZOOMとLMSを組み合わせた遠隔システムによって行われた。受講生は、まず語彙や文法も含めた基礎的なアカデミックライティングの書き方を学習した。そこには、リストアップ、時間系列、比較対象などのパラグラフの書き方が含まれた。そうしたパラグラフを組み合わせて、説得型、因果関係、問題解決型などの様々なエッセー（短い小論文）を作成するスキルも身に付けた。また、毎回の確認小テストに加え、授業内外の双方コミュニケーション・アクティビティとして、オンライン掲示板を利用して文章作成の練習や互いの書いた物を確認し合うことをおこなった。

学期の終わりには、学期末試験に代わるレポート相当の最終課題として、英語クリエイティブ・ライティングが出題され、学生は3週間かけて、3段階の手順で創造的ライティングを完成した。第1週目Creative Writing-1では、

学生は、教員によってLMS上で示された2つの写真と音楽クリップからイメージを膨らませて、英語でオリジナルのストーリーを書くことを指示された。但し、話の中では主人公（main character）を一人登場させ、その人物が何らかの問題（problem）に遭遇する設定にし、そうした状況を具体的に英語で説明することが求められた。第2週目：Creative Writing-2では、前週に書いた自分のライティングを発展させるように指示された。2週目ではイメージ写真は提示されず、1週目で設定した問題が何等かの方法で解決されるという展開にするよう求められた。最後の第3週目：Creative Writing-3は第15回目の授業日に当たった。学生は、見直しや修正をおこなった上で、完成したストーリーをZOOM授業で口頭発表し、教師や他の学生からフィードバックを受けた。イメージを伝えるためのパワーポイントの使用は許可された。ZOOM発表が困難な学生は、FlipGrid<sup>1</sup>による発表動画の投稿を選択することも許可した。学生は、この日に得たフィードバックや自らの気づきに基づいてライティングを再チェックし、その後の提出日に最終ドラフトをLMS上で提出した。

## 2. 英語ライティングに関する先行研究

### 2. 1 英語学習と英語アカデミック・ライティング

Brown (2002) は、心理言語学者レンネバーグの言葉を引用して、「人間は、歩いたり話したりすることは、みな同じように自然に習得するが、書くことは、其々の文化によっても異なり、泳ぐことと同じように、誰かに教えてもらって初めてできるようになる<sup>2</sup>」と語っている。言い換えると、書くことを習得するには学習が必要であると言える。ライティング教育の研究は、様々な角度から行われてきた。研究の主なテーマとしては、作文とライティング、過程と成果物、言語・文化によって異なるライティング、母語（first language or L1）と第二言語

(second language or L2)によるライティング、などを其々に比較しながら研究したものがみられる (Brown, 2002)。また、Authenticity (どれだけ本物に近いか、又は本物らしさなど) や、ライティング指導における教師の役割なども研究されている。

学習者がライティングを好む傾向について、過去の英語教育経験との関係において調べた研究がある。松宮 (2009) は、日本型早期英語教育が中等学校英語教育に及ぼす影響について高校1年生を対象に調査を行った。その調査によると、ライティングなどの表現活動への志向は、コミュニケーション活動への志向と並んで、早期英語教育の経験者の方が、経験していない生徒達よりも高かったと報告されている。文法や語彙の学習に主眼を置くといわれる中等教育において、ライティングの内容や分量は未確認であるが、センテンス・レベルでも英語で書くことへの興味が高まれば、英語習得の大きな一助である。

ライティングの学習には多くの要素が関係し、学習者も色々な学習方略を使用する。例えば、Khongput (2020) は、非英語メジャーの大学生の認知的、社会的、また学習意欲や動機付けに関連する方略を、書く前、書いている時、書いた後の振り返り、そして授業現場以外での事象を含めて研究し、協力的なディスカッションなど、ある程度自由度のある環境ではライティングの方略が上手く働くと報告している。

ライティングは教えられるべきだという Brown の言葉がある一方、大学生のすべてが授業でライティングを学ぶチャンスがあるわけではない。実際の現場では、どのようなサポートが可能なのであろうか。大学の図書館や、自主学習支援のためのクリエイティブコモンズなどでは、学生のためのアカデミックライティングの手引きのような冊子、プリント資料、ウェブサイト等を用意していることが多い(例えば、森と坂尻, 2021)。しかし、こうした手引きの殆どは、日本語でレポートや卒論を書くための

ガイドであり、英語ライティング用の教材ではない。英語論文ライティングの指導書としては、Swales & Feak (e.g., 2004) による "Academic Writing for Graduate Students" がよく知られている。当著書は、論文作成のガイドラインを、練習問題も含めてステップ・バイ・ステップで詳細に示しているが、英語第一言語話者 (ネイティブ・スピーカー) 又はある程度英語力を身に付けた英語第二言語話者 (ノン・ネイティブ・スピーカー) の大学院生を本来の対象としている。しかし、適切な指導の下で用いられれば、学部生の英語中級者のライティング力向上にも役立ちそうである。

## 2.2 英語クリエイティブライティング

英語の教授方法や第二言語習得の分野で、英語ライティングに関する研究が多く見られる中、英語クリエイティブ・ライティングに関する研究は少数である。Myers (1996) によると、アメリカでは、1920年代に Creative Writing (CW) という名称を使って 文章創作の教育が始まり、1930年代には既に創作作品による修士学位の授与があった；またイギリスでは、1970年代からカリキュラムにCWが含まれるようになった (高橋, 2018)。その後、CWに関連した大学の学部、授業、学位やプログラムなどは、驚くほどの割合で増加していった (McVey, 2008)。McVey は、大学教育がCWを他のライティングと分けていることについて異議を唱えており、「すべてのライティングは、クリエイティブである」と主張する。

Gunther (2012) は、徳島大学イングリッシュ・サポート・ルームにおけるクリエイティブ・ライティングの特別企画プログラムの実践を報告する中で、初めはただ英語で書くことを教える目的で始まった企画であったが、クリエイティブ・ライティングを通じて学生は、創作力を高め、英語で書くことに自信を持つようになり、読書量も増えた、と書いている。こうした良好な結果を踏まえ、ギンターは、クリエ

イティブ・ライティングが大学の正式科目になる事を望むと記している。彼のこの言葉が示唆するように、ライティングを教える科目自体が、他の英語スキルを目的とする科目に比べて少ない中、クリエイティブ・ライティング専用の英語科目は特に未発達ようだ。学生のライティング志向について、McVey (2008) によると、彼の(理系の)学生はクリエイティブ・ライティングへの志向が低いとした上で、オンライン・ディスカッション、Eポートフォリオ、ウェブサイトやメールの利用などICTの機能を利用することで、ライティングの助けになると語る。

### 3. 研究方法

#### 3. 1 アンケート調査と分析方法

本研究では、2021年7月下旬に、オンラインのLMSによるアンケート調査をおこなった。質問紙は7個の設問から成り、そのうち4問(設問1, 設問4, 設問5, 設問6)は選択肢を選ぶ質問、3問(設問2, 設問3, 設問7)は自由記述による質問である。下記は、これらの設問内容と選択肢である:

「クリエイティブ・ライティングに関するアンケート」

設問1. この授業より前に、Creative Writing (創造的なライティング) 課題を書いたことはありますか? (単一選択式)

1. はい
2. いいえ

設問2. Creative Writing について面白いと思った点を教えてください。(自由記述)

設問3. Creative Writing について難しい、困ったと思った点を教えてください。(自由記述)

設問4. Creative Writing を書くために、授業ハンドアウトで画像や音楽を提示しました

が、それらは、イマジネーションを呼び起こすヒントとして使用できましたか? (単一選択式)

1. すべて使用して書いた
2. 音楽だけ使用して書いた
3. 写真だけすべて使用して書いた
4. 写真の中の一部だけ使用して書いた

設問5. 同意や不賛同などを論じるタイプのエッセーと比べて、このような創造的なライティング課題をどう思いますか? (単一選択式)

1. 論じるタイプのエッセーの方が書きやすい
2. 創造的なエッセーの方が書きやすい

設問6. 同意や不賛同などを論じるタイプのエッセーと比べて、このような創造的なライティング課題の方が英語力の習得につながるでしょうか? (単一選択式)

1. 論じるタイプのエッセーの方が英語力の習得につながる
2. 創造的なエッセーの方が英語力の習得につながる

設問7. 上の5, 6での回答の理由を、簡単に述べてください。また、創造的なエッセーや、英語ライティングに関して、何か意見があれば、何でも書いてください。(自由記述)

分析の際には、選択肢による質問の回答は単純集計をおこない、記述回答は、KH-Corderによる共起ネットワークの結果を参考にしながら、解釈学的な分析をおこなった。

#### 3. 2 被験者

上記のアンケートを、情報英語科目を履修する2年生以上の大学生30人に実施した際、無回答、および、一問のみの記入や自由記述における他科目との混同による誤記入を含む回答などを除いた結果、20人の回答を有効とみなして分析の対象とした。アンケートは、学習管理



システム LMS のアンケート機能を使用して、オンラインで実施した。実施前に、学生には、これらのアンケート結果は研究目的で分析を行う予定であること、しかし個人名は一切採取されず成績にも関係しないこと等を説明し、その内容を記述したオンラインの Consent フォームを提示した。説明を理解して回答したことを示すため、学生にはオンラインのフォーム上で確認のチェックを記入してもらった。この 20 人は全員が了承している。

## 4. 結果と考察

### 4. 1 アンケートの選択式設問の結果

設問 1 「この授業より前に、Creative Writing (創造的なライティング) 課題を書いたことはありますか?」という問いに対し、全体の 4 分の 1 に当たる 5 人が「はい」全体の 4 分の 3 に当たる 15 人が「いいえ」と答えた (図 1 参照)。

設問 4 「Creative Writing を書くために授業ハンドアウトで画像や音楽を提示しましたが、それらは、イマジネーションを呼び起こす

ヒントとして使用できましたか?」という問いに対しては、13 人が「1. すべて使用して書いた」を選択し、2 人が「3. 写真だけすべて使用して書いた」を、5 人が「4. 写真の中の一部だけ使用して書いた」を選んだ。「2. 音楽だけ使用して書いた」を選択した者はいなかった。(図 2)

設問 5 「同意や不賛同などを論じるタイプのエッセーと比べて、このような創造的なライティング課題をどう思いますか?」という問いには、「1. 論じるタイプのエッセーの方が書きやすい」を選んだ回答者は 8 人、「2. 創造的なエッセーの方が書きやすい」を選んだのは 12

図 1. 設問 1. の結果 (人数)

この授業より前に、Creative Writing (創造的なライティング) 課題を書いたことはありますか? (単一選択式)

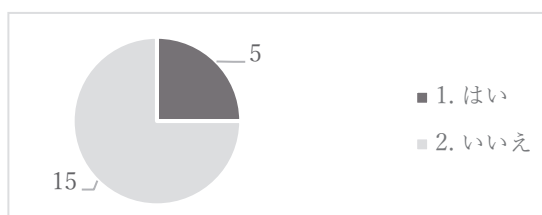


図 2. 設問 4 の結果 (人数)

Creative Writing を書くために、授業ハンドアウトで画像や音楽を提示しましたが、それらは、イマジネーションを呼び起こすヒントとして使用できましたか? (単一選択式)

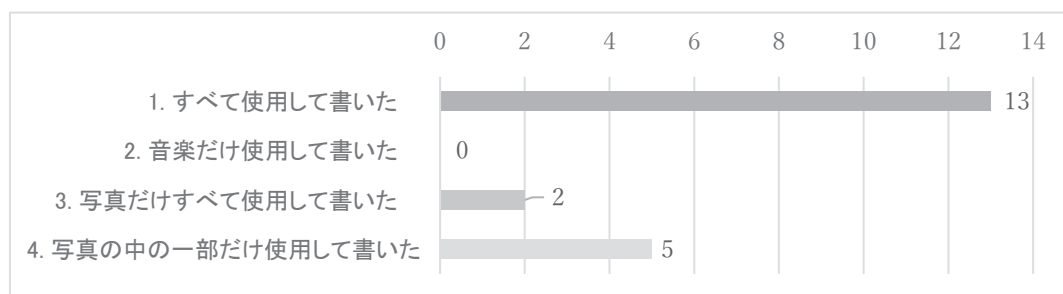


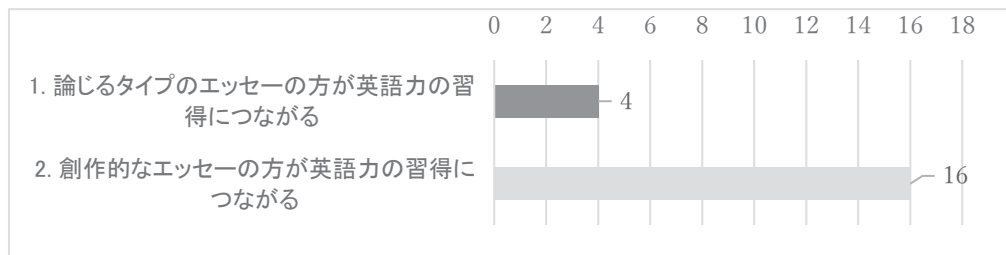
図3. 設問5の結果(人数)

同意や不賛同などを論じるタイプのエッセーと比べて、このような創作的なライティング課題をどう思いますか？(単一選択式)



図4. 設問6の結果(人数)

同意や不賛同などを論じるタイプのエッセーと比べて、このような創作的なライティング課題の方が英語力の習得につながると思いますか？(単一選択式)



人であった。(図3)

設問6「同意や不賛同などを論じるタイプのエッセーと比べて、このような創作的なライティング課題の方が英語力の習得につながるでしょうか？」と言う問いに対しては、「1. 論じるタイプのエッセーの方が英語力の習得につながる」を選択したのは4人のみで、残りの16人は、「2. 創作的なエッセーの方が英語力の習得につながる」を選択していた。(図4)

#### 4.2 アンケートの自由記述式設問の結果

設問2と設問3は、クリエイティブ・ライティングの面白さ、あるいは難点を聞く自由記述式の設問である。設問2、3共に、20人中19人が意見や感想をコメントしていた。

##### 4.2.1 設問2.への自由記述回答

「Creative Writingについて面白いと思った

点を教えてください」という問いに対する自由記述の内容は、表1に示したように、A 既習知識の活用や新たな知識の学習、B 未経験の新しさ、C 創作の楽しさ、D 個性(発表で他の人の個性を知ることができた)、E その他という5つのカテゴリーに大別することが出来る。2つ以上のカテゴリーに当てはまるものもあるため、表では、コメントが相当する主要な分類を分類1に、その他にも適合する分類がある場合は分類2に記入した。

A 既習知識の活用や新たな知識の学習のカテゴリーでは、「今まで習った英語を活用して文を完成で来た」、「英語の文章構成を学べた」と言う記述があった。

B 未経験の新しさを表すコメントは4件あり、「自分で考えたことを英語にすることは新しい経験であった」、「英語での物語の作成は新鮮だった」、「英語で長い文を書いた経験がすく

なかったのが楽しかった」、などの記述があった。他の人の発表で、自分では想像しなかった切り口のものも多く、面白かったという発言もあった。

表 1. 設問 2. への自由記述回答

Creative Writing について面白いと思った点を教えてください

おもしろいと思った点	分類 1	分類 2
今までに習った英語を活用して完成することができたところが面白かった。	A 既習知識の活用や新たな知識の学習	
英語の文章構成を学べた点	A 既習知識の活用や新たな知識の学習	
自分の考えた話を英語にするというのは私の中で新しいことだったので、どのように面白いのか、と考えると難しいのですが、単純に新しいことをするのが楽しかったです。	B 未経験の新しさ	C 創作の楽しさ
英語での物語の作成は新鮮で面白かった	B 未経験の新しさ	
他の人の文を聞いていると、自分では想像しなかった切り口のもの多くて、面白かった。	B 未経験の新しさ	
英語で長い文章を書いた経験があまりなかったため、楽しかった。	B 未経験の新しさ	
自分で色々考えて書くのは面白かったです。	C 創作の楽しさ	
ある程度のルールに従って書くことでイメージを文字に起こすことが非常にスムーズになって面白かったです。	C 創作の楽しさ	
写真だけではなく、音楽からも連想させて物語を作るのが面白かった。	C 創作の楽しさ	
自分で自由にストーリーを作成できる点。	C 創作の楽しさ	
自分の思っていることや他人と異なる意見を自分なりの言葉で文章にすることが出来る点が面白かったです。自分が考えてもいなかった意見が他の人から出たりするところという考えをする人もいるんだなと感じることが出来るのでそのような点も面白かったです。	C 創作の楽しさ	D 発表で他の人の個性を知ることができた
自分の好きな物語を、調べながら英語で書けるのが斬新で面白かったです。	C 創作の楽しさ	
写真や音楽から物語を自分で創造するという点が面白かったです。	C 創作の楽しさ	
自分で考える面白さがあった。	C 創作の楽しさ	
自分のストーリーが書ける点。	C 創作の楽しさ	
自分が書こうとしている表現をどのように英語にするか考えるのが楽しかった。	C 創作の楽しさ	A 既習知識の活用や新たな知識の学習
少ない共通の情報から、個性のある話が聞けて面白かったです。	D 発表で他の人の個性を知ることができた	
英語で文章を作るのと日本語で文章を作るのが、全然違かった。	E その他	
英語教育の枠組みの中から特出して面白かった点はなかった。	E その他	

C 創作の楽しさ に関するものは1番多く、10件のコメントには、「自分で色々考えて書くのは面白いと思った」、「自分で自由にストーリーを作成できる」、「自分の好きな物語を調べながら英語で書けるのが斬新で面白い」、など自分で自由に英文や物語を作りだすことの面白さを訴えるものが多く見られた。又、「ある程度のルールに従って書くことでイメージを文字に起こすことが非常にスムーズになって面白い」、「写真や音楽から物語を自分で創造するという点が面白い」といったコメントもあった。更に、D 個性 (発表で他の人の個性を知ることができた) のカテゴリーに分類できるものとして、「少ない共通の情報から、個性のある話が聞けて面白かった」、「自分では想像しなかった切り口のものも多く聞けた」という様に、クラスメイトの創作物に対しても新しい発見があったことを示すコメントが見られた。

#### 4. 2. 2 設問3への自由記述回答

「Creative Writing について難しい、又は困ったと思った点を教えてください」という問いに対する自由記述の内容を表2に示している。学生からのコメントを、難しいと感じたポイントを元に分類すると、A 言語 (語彙、文構成、表現など)、B 自分の英語力、C 内容やストーリーの考案、D 日本語から英語への転換、そしてE その他という5つに分けられる。設問2と同様に、主要な分類を分類1に、その他の適合する分類がある場合は分類2に記入した。

表2にからも分るように、最も多くの学生が難しい、困った、と感じていたのは、A 言語 (語彙、文構成、表現など) と関連した点である。これらは、分類1だけで10件、分類2の中にも2件あり、合計12件の関連コメントが書かれていた。「文章の構成や単語を調べながら行ったので、時間がかかった」、「思いついた表現を英語で表すのがむずかしかった」、「その事象を的確に表す単語を知らずにあいまいな表現に

なってしまう」といった、英文作成プロセスでの苦労を示す表現が多く見られた。

B 自分の英語力に関するものは2番目に多く、合計7件あったが、そのうち5件はA 言語の問題と共に起こっている。例えば、「文法や英単語をうまく使う事ができていないように感じてとても困りました。英語は苦手な方だったので、..... 伝えたい意味に合う英単語を見つけるのも大変」というものや、「英語の語彙が少ないのでその点が苦労した」、「英語が苦手なので、文法や単語などを調べるのが大変だった。」などと、自分の英語力不足に伴って英語の使用に苦戦したことが分るコメントが見られた。

C 内容やストーリーの考案に関する問題も4件、指摘されている。「ストーリーを考えるのが難しかった」、「最後のオチを作るのが難しかった」、「写真等をどのような流れで上手く物語上で結びつけられるかを考える点においては少し難しい」といった記述から、学生は、クリエイティブ・ライティング独特の創作性に関する問題に直面した様である。また、1件は、B 自分の英語力の問題があるため尚更、内容の考案が難しくなったことを示している。

D 日本語から英語への転換に関する困難さを示す記述は分類の1と2を合わせて4件あったが、いずれも、A 言語 (語彙、文構成、表現など) と関連して生じている。ほかに、E その他に分類されるコメントが2件あったが、クリエイティブ・ライティング制作過程自体の問題には当たらない。

#### 4. 2. 3 設問7への自由記述回答

最後の設問7は、「上の設問5、6での回答の理由を、簡単に述べてください。また、創作的なエッセーや、英語ライティングに関して、何か意見があれば、何でも書いてください」というものである。これには、20人中17人がコメントを記入した。これらについては、設問5(書き易さ)と設問6(英語力の習得)の回答と深



表 2. 設問 3. への自由記述回答

Creative Writing について難しい、又は困ったと思った点を教えてください

難しい、または困ったと感じた点	分類 1	分類 2
文章の構成や単語を調べながら行ったので、時間がかかった点。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	
やはり文法や英単語をうまく使う事ができていないように感じて、そこはとても困りました。英語は苦手な方だったので、辞書やインターネットで表現の仕方や伝えたい意味に合う英単語を見つけるのも大変でした。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	B 自分の英語力
思いついた表現を英語で表すのがむずかしかった	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	B 自分の英語力
文法的に合っているか分からなくて、合っているか調べるのも難しかった。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	B 自分の英語力
英語の語彙が少ないのでその点が苦勞しました。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	B 自分の英語力
私は英語が苦手なので、文法や単語などを調べるのが大変だった。また、調べたものがあるのか分からないことが多々ありそこで困ることが多かった。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	B 自分の英語力
そのストーリーを英語に変える点。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	D 日本語から英語への転換
自分が思っていることをどういうふうにかけている人に伝えられるかを考えることが一番難しと感じました。頭の中では、考えていてもそれをどういう風に英文にするか、語弊が無いように作るかということ意識して作ることが難しと感じました。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	D 日本語から英語への転換
その事象を的確に表す単語を知らずにあいまいな表現になってしまう。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	
英文を考えるのが難しかった。	A 言語 (語彙、文構成、表現など)	
書きたいことがあっても自分の英語力が追い付かなくて書けないのが難しかったです。	B 自分の英語力	
私は「論じるタイプのエッセイ」も、そもそも日本語で考えることが苦手で、英語化よりむしろ、内容考案が難しかった。	C 内容やストーリーの考案	
ストーリーを考えるのが難しかったです。	C 内容やストーリーの考案	
最後のオチを作るのが難しかった。	C 内容やストーリーの考案	
写真等をどのような流れで上手く物語上で結びつけられるかを考える点においては少し難しい部分もあるように感じた。	C 内容やストーリーの考案	
自分で考えた話のため、難しい言い回しを英語に直すのが難しかった。	D 日本語から英語への転換	A 言語 (語彙、文構成、表現など)
自分の考えているように英語にできているのかわからないのが難しいところだと感じた。	D 日本語から英語への転換	A 言語 (語彙、文構成、表現など)
ライティング以外に英語で人とコミュニケーションをとらないといけない点	E その他	
特になし!	E その他	

く関係する為、設問5と6の回答の組み合わせごとの回答者数とコメント数を示した(表3参照)。クリエイティブ・ライティングは、創作的エッセーという表現になっている。また、自由記述によるコメントの内容は、設問5と6の回答の組み合わせごとに、表4で一覧にしている。

これらによると、最初の組み合わせのように、創作的エッセーの方が書き易く、英語力習得にもつながると考えている人は、全体の半数に当たる10人である。「創作物だと意見が縛られず自由に書くことができる」、「自分の考えたストーリーなので書きやすい」、「創作的なエッセーの方が自由度があるし、聞いていて面白い」といったように自由に創作を楽しむ声が上がっている。また、「自分の考えたストーリーなので書きやすいし、単語や文法も頭入ってくるように感じました」、「自分で創作して書く方が私は楽しいと感じるため、より積極的に行う事が出来る」、「より深くまで内容なども理解することが出来ることや英語の読解力も文章を作る上で身に付きやすくなると考える」など、楽しい、面白いと感じることが、英語の学習意欲や知識の理解・獲得につながった事を示すコメントもある。「自分自身、イラストや動画編集など作る系は好きだからです」と言うコメントが、メディア・情報学系の分野を専攻する学生達の考

えを代表しているようにも思われる。

2番目の 創作的エッセーの方が書き易いが、論じるタイプのエッセーの方が英語力の習得につながるの組み合わせを選択したのは2人である。「もう少し論述的な文章を書きたいと感じた」、「自分の書きたいような内容以外を書くことになると思うので英語の習得には論じるタイプのエッセーが良いと感じた」と言うコメントが見られ、論述的な文章書くことの方が英語習得に役立つと考えている人もいることが示された。

3番目の、論じるタイプのエッセーの方が書きやすいが、創作的エッセーの方が英語力の習得につながるという組み合わせは、2番目に多い数の6人が選んだ。「論じるタイプのエッセーは書くべき対象が決まっているので書きやすいが、創作的な方が自分で自由に最初から書くので英語の書く力は高まる」、「論じる場合は特に表現を考えなくていいが、創作的エッセイは表現を考える事が出来る為習得につながる」、「論じるタイプのものはテンプレート通りにやると書けるので、英文を作る能力を高めたいなら創作的なエッセイのほうがいいと思った」というように、パターンに当てはまらない創作的エッセーの方が、英語力を高めるのには適しているという考えが、見られた。

最後の 論じるタイプのエッセーの方が書き

表3 設問5と6の回答の組み合わせごとの回答者数とコメント数

上の設問5、設問6での回答の理由を、簡単に述べてください

設問5 書き易さ	設問6 英語力の習得	左の組み合わせを選択した人数	左の組み合わせを選択した人のコメント数
2 創作的なエッセーの方が書きやすい	2. 創作的なエッセーの方が英語力の習得につながる	10	8
2 創作的なエッセーの方が書きやすい	1. 論じるタイプのエッセーの方が英語力の習得につながる	2	2
1. 論じるタイプのエッセーの方が書きやすい	2. 創作的なエッセーの方が英語力の習得につながる	6	6
1. 論じるタイプのエッセーの方が書きやすい	1. 論じるタイプのエッセーの方が英語力の習得につながる	2	1

やすく、英語力の習得にもつながる を選択したのは2人であった。コメントは1件のみだが、「初歩的な部分においては、やはりまずは論じるタイプの定型文をしっかりとできるように

なってから創作的な部分に手を出す方が良いのではないかと考えたから。」という記述があった。

表4 設問5と6の回答の組み合わせごとの自由記述コメント

回答組み合わせ	コメント
創作的エッセイの方が書き易く、英語力習得にもつながる	創作物だと意見が縛られず自由に書くことができるから。
	論じることもやってみれば楽しいし英語力が身につくのもかもしれませんが、創作的に行うことで、自分の考えたストーリーなので書きやすいし、単語や文法も頭入ってくるように感じました。
	論じるタイプのエッセイでは、英語力よりも文章力に力を入れてしまい、学習の主眼が英語ではなくなってしまったから。
	創作的なエッセイの方が自由度があるし、聞いていて面白いと思うから。
	自分で創作して書く方が私は楽しいと感じるため、より積極的に行う事が出来るという点から両方2を選択した。
	自分の考えや他人の考えを同意や不賛同だけではなく、より深くまで内容なども理解することが出来ることや英語の読解力も文章を作る上で身に付きやすくなると考えるからです。
	自由に書ける点。 自分で創作を考える力が身につくと感じた。 自分自身、イラストや動画編集など作る系は好きだからです。
創作的エッセイの方が書き易いが、論じるタイプのエッセイの方が英語力の習得につながる	もう少し論述的な文章を書きたいと感じた、
	自分の書きたいような内容以外を書くことになると思うので英語の習得には論じるタイプのエッセイが良いと感じた。
論じるタイプのエッセイの方が書きやすいが、創作的エッセイの方が英語力の習得につながる	論じるタイプのエッセイは書くべき対象が決まっているので書きやすいが、創作的な方が自分で自由に最初から書くので英語の書く力は高まると思いました。
	論じる場合は特に表現を考えなくていいが、創作的エッセイは表現を考える事が出来る為習得につながると考える
	創作的なエッセイは表現のレパートリーを増やしたほうが良いと思ったから。論じるタイプのものはテンプレート通りにやると書けるので、英文を作る能力を高めたのなら創作的なエッセイのほうが良いと思った。
	物語を作ることの苦労があると思います。しかし、英語力の習得という面ではイメージを文字に起こすことが非常に有効であると考えます。
	論じるタイプは、これに関してどうですかなど、何について書くかがある程度決まっているが、創作的なタイプは、一から考えなくてはいけなため。一から考える分、勉強になると考えたため。
論じるタイプのエッセイの方が書きやすく、英語力の習得にもつながる	創作だと0から1を作るのが大変です。しかし、書いている途中で知らない単語や表現を学びやすいという点では習得に繋がっていると思います。
	初歩的な部分においては、やはりまずは論じるタイプの定型文をしっかりとできるようになってから創作的な部分に手を出す方が良いのではないかと考えたから。

## 5. まとめと今後の課題点

本研究は、2021年春学期末におこなったアンケートの結果を元に、学生の英語クリエイティブ・ライティングに関する受け止めや感じたことを分析して、メディア・情報学などの分野を勉強する学生に合う英語ライティング力向上の方法を探ることを目的としている。

今回のアンケート結果から、全体の4分の3に当たる多くの学生が、クリエイティブ・ライティングを経験するのは今回が初めてであることがわかった。クリエイティブ・ライティングの面白さを聞く設問では、既習知識の活用や新たな知識の学習に役立つという意見や、これまで未経験の事を行う新しさを楽しんだという声があった。特に、創作の楽しさを語るコメントは被験者の半数である10件あり、今回、自分でストーリーを考えて自由に書くことで創作の楽しさを知ったという多くの記述から、メディアや情報学関係の学生ならではのクリエイティブな能力や創造することへの意欲が垣間見られた。このように、書くことの自由さを喜ぶ声がある一方、別の示唆も得た。今回の試みでは、写真や音楽などを提示し、内容構成にも一定の条件を付けたのだが、一定の枠組みを設定されることで、反って、学生は書き易かったようである。授業の限られた時間の中で、自由なライティングをさせる時には有効なアプローチであると考えられる。

クリエイティブ・ライティングの難しさも浮き彫りになった。半数以上の学生が、言語（語彙、文構成、表現など）の問題を、創作ライティングの難しさとして挙げている。

自分自身の英語力の不足も、難しさの大きな原因と認識されており、この二つの要素は多くの場合で共起していることが、コメントからわかった。内容やストーリーの考案といった、クリエイティブ・ライティングならではの難しさもあったようである。普段あまり使っていない思考の分野が、今回、クリエイティブに書くという事を経験する中で発達、活性化するきっかけ

になるかもしれない。日本語から英語への転換に関する困難さも、数人が挙げていた。英語で書く時は翻訳に頼らずに英語で考えるように、という事が推奨されているが、やはり、学生は、パラグラフレベル以上の文章では、まず日本語で考え、それを適切な英語にする、というプロセスを踏むようである。

クリエイティブ・ライティングの書き易さと英語習得への貢献についての設問では、それらに対する見解の組み合わせごとに検証をおこなった。概観すると、創作的エッセイの方が書き易く、英語力習得にもつながる、という意見が全体の半数を占めた。イラストや動画編集など物を創造することへの興味も示された。また論じるタイプのエッセイの方が書きやすいが、創作的エッセイの方が英語力の習得につながると考える人が、二番目に多い30パーセントほどいた。創作的ライティングによって書く楽しさや面白さを味わうことが、より自主的な英語学習にもつながったということは、興味深い発見であった。

一方で、数は少ないが、論理的なライティングをすることの方が英語習得に役立つという考えも一定数あり、まずは論じるタイプの定型文の習得をもっと確立させるべきという堅実な意見も出た。議論的なエッセイの方を面白く思うという意見も2件あった。

こうした様々な発見から、クリエイティブ・ライティングを授業でおこなうことのメリットが多く示唆された一方、本研究には課題もある。今回が授業として初めての試みであったため、学生のクリエイティビティを刺激するするための素材（写真、音楽など）が、十分に適切であったか、更にいろいろな試行錯誤が必要であろう。また、パワーポイントスライドの作成も、時間を取っての指導が必要であるかもしれない。クリエイティブ・ライティングの授業や指導という同様の研究テーマにおいて、参考に出来る文献数が少なかったことも、引き続き探索が求められる。



英語ライティングは、英語で文を組み立て、英語で自分の意見を言えるようになるための重要なステップであり、スピーキングなどの口頭コミュニケーション力の向上にも寄与する。ライティング自体に興味を持つ学生は少ないかもしれないが、自分の専攻分野に合致したライティングの内容や指導を与えられることで、学習者は、英語で書くことの楽しさを体験したり、学習意欲を増大させたりすることが可能であり、クリエイティブ・ライティングはその為の方法の一つであることが、本研究によって示された。英語教育の授業や研究にも、クリエイティブ・ライティングがより取り上げられることを期待する。

#### 注:

1. FlipGrid フリップグリッド。オンライン上またはアプリ上で、短い動画を撮影してそのサイトに投稿し、教師や学生で共有したり、コミュニケーションし合える教育目的のシステム。多くの語学授業などで使用され、遠隔授業下で使用が伸びている。
2. 次の原文から本著者が要約して翻訳。  
 "..human beings universally learn to walk and to talk, but that swimming and writing are culturally specific, learned behaviors.....We learn to write if we are members of a literate society, and usually only if someone teaches us."  
 (Brown, 2002, p.334)

#### 参考文献

- Brown, H. D. (2001). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy, second edition*. NY: Longman.
- Gunther, D. (2012). Creative Writing: Efficiently teaching Japanese students the joy of writing in English. *Journal of University Education Research*, 9, 98-106.
- 堀一成、坂尻彰宏 (2021). 「阪大生のためのアカデミック・ライティング入門」大阪大学全学教育推進機構.
- Khongput, S. (2020). Metastrategies used by EFL students in learning English writing: Self-reflection. *Language Education and Acquisition Research Network Journal*, 13 (2), 93-104.
- 松宮 新吾 (2011). 早期英語教育が中等学校英語教育に及ぼす影響についての調査研究 (第三次調査). 関西外国語大学研究論集第93号\_p. 215-235.
- McVey, D. (2008). Why all writing is creative writing. *Journal of the Association for Programmed Learning: Innovations in Education and Teaching International*, 45 (3), 289-294. Retrieved from <https://www.proquest.com/scholarly-journals/why-all-writing-is-creative/docview/210673934/se-2?accountid=10105>
- 高橋 まりな (2020). 「研究ノート：英国高等教育におけるクリエイティブ・ライティングの導入：70年代イースト・アングリア大学を例に。」日英教育研究フォーラム 24, 45-57.